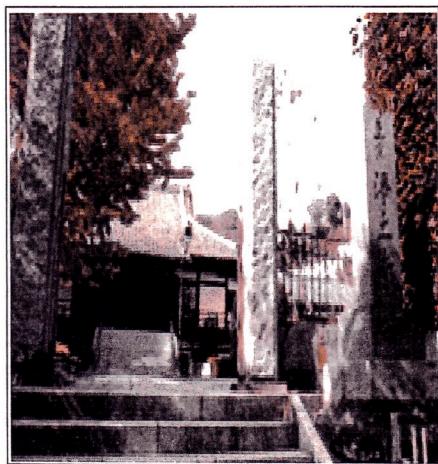




- 三浦按針の念持仏 観音像
- 按針寄進の唄多羅葉(ばいたらよう)
- 按針の屋敷があつた日本橋按針町から
淨土寺に寄進された打敷(一八四〇年)

◎淨土寺 按針の菩提寺

按針ゆかりの宝物がある。



三浦按針を題材とした舞台「イングリッシュ・サムライ ANJIN」が、昨年十二月と今年一月東京と大阪で上演されました。これはホリプロダクション結成五〇周年記念として、日英共同による企画の舞台で、大盛況を博しました。大好評だった舞台は、そのまま映画化され全国各地で上映されました。ロンドンでの公演も計画中のことです。

平成二十一年十一月七日、舞台上演に先がけ、按針役のオーウェン・ティールさんや家康役の市村正親さん、宣教師役の藤原竜也さん他、総勢50名近くの方々が按針塚と彼の菩提寺である淨土寺を訪れ、按針を偲びました。

供養塔の前で。右から家康役の市村正親さん、演出家のグレゴリー・ドーランさん、按針役のオーウェン・ティールさん、宣教師役の藤原竜也さん。



逸見にやつべきまじたり
舞台「接針」の役者たちが



淨土寺住職の話に聞き入る「ANJIN」の役者さん達

青い目のサムライ 三浦按針とは

みうらあんじん

作成：「接針の町 逸見を愛する会」

○三浦按針ことウィリアム・アダムズは、1600年、乗っていたオランダ船リーフデ号が九州豊後沖に漂着し日本にやって来たイギリス人航海士。時に関ヶ原の戦いの5か月前のことだった。彼は英国人として最初に来日した人物である。

○アダムズは病気の船長に代わって、当時五大老の一人だった徳川家康に謁見した。すでに日本に来ていたスペインやポルトガルの商人や宣教師たちの誹謗中傷により、あやうく処刑されそうだったリーフデ号の乗組員だったが、アダムズの知識と人柄を気に入った家康は、彼ら全

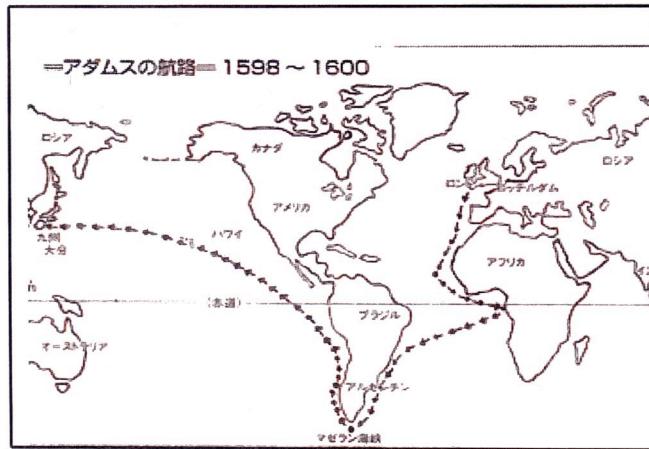
放した。リーフデ号に積まれていた大砲や鉄砲は関ヶ原の戦いで使われたと言われている。

○アダムズを信頼した家康は、後に彼を外交顧問として重用し世界情勢について尋ねるなど様々なことを相談するようなる。彼が本国に送った手紙には、家康に数学や幾何・天文学を教えたとある。

○アダムズは家康の依頼により、浦賀の船手奉行向井将監忠勝とともに船大工たちを率いて、伊豆の伊東で日本初の西洋式帆船を二隻建造した。

○このアダムズの功績に対し、家康は彼に日本橋の屋敷と、天領だった逸見村250石と約90戸の領民を与えた。そして日本名を三浦按針（接針とは水先案内人を意味する）とし、旗本身分の侍にした。日本人妻、雪との間に男女2子をもうけている。按針はワインやパンを作らせていたことが記録に残っている。彼と妻子が暮らした屋敷は、逸見の鹿島神社のあたりと伝えられており、そのあたりが昔「ぶどう畑」と呼ばれていたのも、その由縁と思われる。

○アダムズは外交において、家康に中立な進言をした。日本が植民地にならずに済んだのは、アダムズのお陰と言っても過言ではない。アダムズは故国イギリスに妻子を残し、望郷の念尽きぬまま、1620年、来日より20年の後平戸にて亡くなる。56歳だった。彼は生前、「自分が亡くなったら江戸城が見える高所に葬ってくれ。そうすれば永く江戸を守護し將軍家のご厚恩に報いよう」と言い残したとある。これが按針塚に彼の供養塔がある所以である。



テレビ朝日の「スーパー モーニング」で紹介された三浦按針

ガリバー旅行記のモデルは按針だったのでは！？

